

テクノの未来を考えるニュースレター

Vol.

4

テクノの  
未来を  
考える

2026年8月

## みんなで出し合った 意見をご紹介します!

現在、播磨科学公園都市の新たなあり方について、「まちづくりチーム」「都市フレームチーム」「イノベーションチーム」の3つのチームに分かれて検討を進めています。

令和8年7月28日には、「まちづくりチーム」の第3回会議を開催しました。主なご意見は裏面に掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後も3つのチーム会議の開催状況や意見交換の内容については、「チーム会議ニュース」として引き続きお知らせしていきます。

### チーム会議 開催概要【まちづくりチーム(第3回)】

■日 時: 令和8年7月28日(火曜日)

18時00分～19時30分

■場 所: 光都プラザ cotohana

■出席者数: 23名

・まちづくりチームメンバー 21名  
(有識者2名、行政職員9名、地域住民10名)

・傍聴者 2名

■プログラム内容: 1.開会

2.ワークショップ(意見交換)

3.意見の共有

4.閉会

前回(第2回)に引き続き、3班に分かれて意見交換を行い、付箋を用いて意見を出し合いながら論点に基づく具体的な検討項目を整理し、各班の検討結果を全体で共有しました。

#### 【まちづくりチームの主な論点】(令和7年度第3回あり方協議会資料より)

- ①日常生活(医療・福祉・買い物等)の基盤の確保
- ②くらしの安全(防災・防犯等)の確保
- ③公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保
- ④住環境の質の確保(豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等)
- ⑤働く場・環境の確保
- ⑥多様な人がつながるコミュニティの形成
- ⑦質の高い教育環境の確保
- ⑧学生・研究者にとって魅力あるまちづくり
- ⑨研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出
- ⑩住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場(空間)の創出
- ⑪都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成
- ⑫既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用
- ⑬若者等の定住・雇用環境の整備
- ⑭自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開



意見交換の様子



発表の様子

## 主な意見



その他、全ての意見  
はこちら！



### 参加者

- 人と人とのつながりを育むため、誰もが気軽に集まれるスペースや、イベントなどを通じて交流できる機会を設けることが必要。
- 安心・安全なまちを強化するため、住民同士が気軽に交流できる場をつくり、日頃から顔の見える関係を築くことが大切。
- 広報誌や新聞、SNSなどさまざまな媒体を活用し、若者だけでなく幅広い世代が情報発信に関われる仕組みが必要。
- SPring-8を題材としたアニメなども活用しながら、科学や学びのまちとしての魅力を積極的に発信していくことも重要。
- 高齢者が経験や知識を生かして地域で活躍できる存在として、まちづくりに参加できる仕組みが必要。
- 高速道路から近い立地を活かし、短期的にはETC2.0等による利便性向上、長期的には播磨自動車道を利用しやすい仕組みづくりを進めることで、人の往来やにぎわいの創出につなげてはどうか。
- 漫画やアニメ、パネル展示等を通じてSPring-8の研究内容を分かりやすく紹介するとともに、イベント、観光PR、関連商品、ふるさと納税等へ展開し、地域外からの来訪や話題づくりにつなげてはどうか。
- 地域住民や学生にも地域の魅力が十分に知られていないため、新たな施設整備よりも、まずは既存資源を整理・発信することが重要。
- フロンティア祭など場を活用し、住民や学生から地域のおすすめスポットや魅力的な風景を募集・可視化することで、それらの情報発信やスタンプラリーなどのテクノの各所を巡る企画につなげてはどうか。



### 有識者（コーディネーター）

- 本日の議論を通じて重要だと感じたのは、「目指す将来像から現在を考える視点（バックカスティング）」と、「今できることを積み重ねながら将来につなげる視点（フォアカスティング）」の両方を行き来する「フライカスティング」型で議論を進めることである。
- 議論を深めるためには、必要な知識を学びながら意見を整理し、段階的に具体化していくことも重要。
- 合意形成では、多くの人が賛同する意見だけでなく、少数意見の中に新しい発想やイノベーションの種が含まれている場合もある。そのため、多数・少数にかかわらず幅広い意見を大切にしながら議論を進めていきたい。
- 次回以降も、こうした考え方を共有しながら、テクノの将来像について検討を深めていきたい。
- 人と人とのつながりや交流の場の必要性については、これまでも繰り返し議論されてきたテーマである。「何が必要か」だけでなく、「これまでなぜ十分に実現できなかったのか」という点も振り返りながら議論を深めることが重要。
- 今後は「何をするか」だけでなく、「誰が担うのか」という実施主体の視点も重要。

**チーム会議はスタートしたばかりです。今後もワークショップ等の意見交換の機会を予定しています。テクノの未来を、一緒に考えていきましょう！**

お問い合わせ先

播磨科学公園都市の新たなあり方  
検討協議会マネジメント会議

【事務局】兵庫県企業庁 地域整備振興課  
【電話番号】078-362-3850  
【E-mail】chiikiseibi@pref.hyogo.lg.jp

テクノのあり方検討  
についての詳細情  
報はこちらをご覧  
ください  
(兵庫県企業庁HP)

